

2024年（令和六年） 5月24日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

当週（5月16日～22日）の国際石油市場は、米中の経済見通し、パレスチナ・ウクライナの戦況を主な要素として推移、前半堅調だったが、後半軟化した。WTI先物は、パレスチナ停戦期待の後退・ラファへの攻撃、ウクライナのロシア製油所へのドローン攻撃の激化を背景に、米国の利下げ期待もあり、16日は続伸の79.23ドルで始まったが、中国の経済回復期待で、17日は続伸、80ドル台を回復したものの、週明け20日からは、米の早期利下げ観測が後退、3日続落し、22日は77.57ドルで終わった。

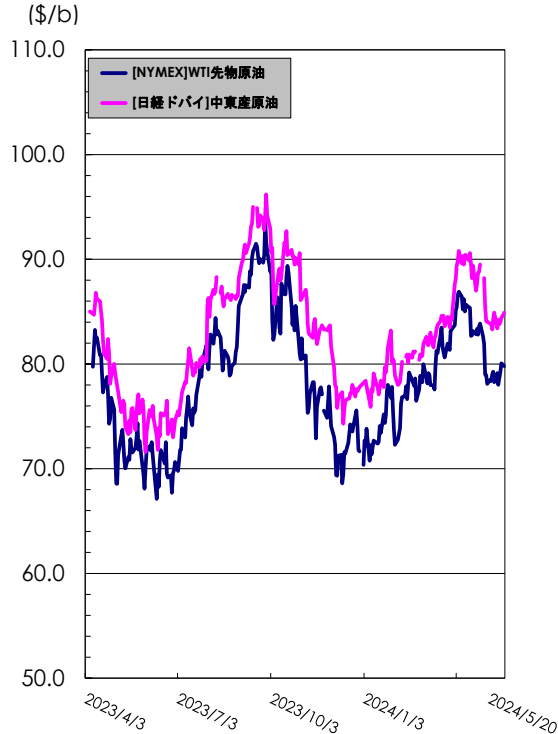
また、中東産パイ原油/東京市場（7月渡し）も、前週（5月9日～15日）83.40～84.90ドルの範囲で推移したが、当週は、5月16日84.00ドル、17日84.40ドル、20日84.90ドル、21日84.00ドル、22日83.50ドルと推移した。

対ドル為替レート（TTM）は前週（5月9日～15日）155.65～156.53円の範囲で推移したが、当週は、5月16日153.94円、17日155.58円、20日155.91円、21日156.49円、22日156.33円となった。

財務省が5月22日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、4月下旬の原油輸入平均CIF価格83,383円で前旬比1,526円高、ドル建て86.72ドルで前旬比0.78ドル高、為替レートは1ドル/152.87円。また、4月月間の原油輸入平均CIF価格81,719円で前旬比3,703円高、ドル建て85.73ドルで前旬比2.73ドル高、為替レートは1ドル/151.55円。

そのような中で、5月20日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.3円高、軽油も同0.3円高、灯油は1円高（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.8円となった。5月23日～29日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は25.6円（補助金がない場合の次週予想価格200.4円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は15.4円）となった。

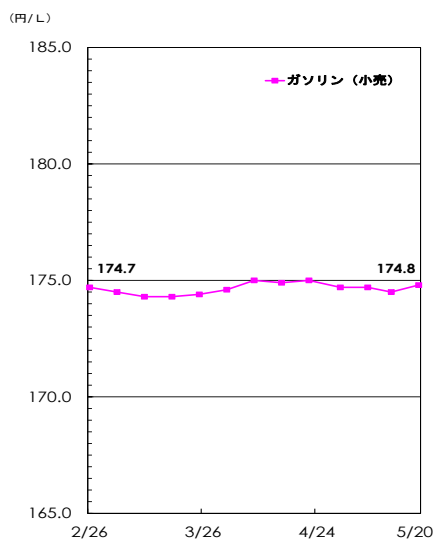
原油			今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/12 ~ 5/18	2,471	▼ -309	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	68.7	▼ -8.6	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/18	9,885	▼ -589	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	5/20	84.90	▲ 1.50	▲ 11.2
	WTI先物原油 (NYMEX) (\$/bbl)	5/20	79.80	▲ 0.68	▲ 7.8
	原油C I F単価 (\$/bbl)	4月下旬	86.72	▲ 0.78	▲ 3.19
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	83,383	▲ 1,526	▲ 13,935
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	152.87	▼ -1.44	▼ -20.69
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/20	156.91	▲ 0.07	▼ -18.19



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/12 ~ 5/18	779 ▼ -98	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	714 ▼ -63	▼ -
	輸出	"	114 ▲ 62	▲ -
	在庫	5/18	1,746 ▼ -49	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/14 ~ 5/20	83.0 ➡ 0.0	▲ 10.0
		(TOCOM/中部) 5/20	80.0 ➡ 0.0	▲ 3.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 5/20	174.8 ▲ 0.3	▲ 6.7

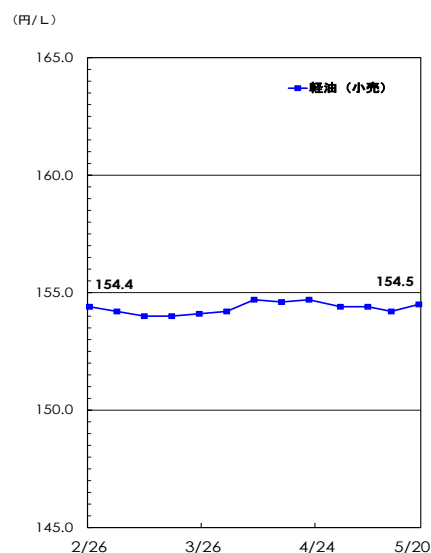
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

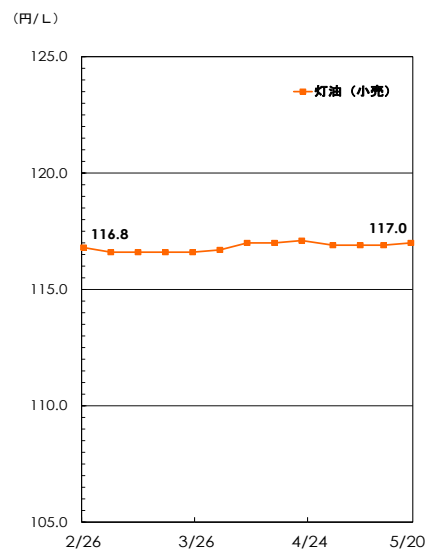
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/12 ~ 5/18	591 ▼ -113	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	638 ▲ 105	▼ -
	輸出	"	45 ▲ 4	▼ -
	在庫	5/18	1,483 ▼ -92	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/14 ~ 5/20	83.6 ▲ 0.5	▲ 6.1
		(TOCOM/中部) 5/20	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 5/20	154.5 ▲ 0.3	▲ 6.4

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/12 ~ 5/18	173 ▲ 14	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	72 ▼ -21	▼ -
	輸出	"	32 ▲ 32	▲ -
	在庫	5/18	1,400 ▲ 69	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/14 ~ 5/20	81.5 ➡ 0.0	▲ 6.5
		(TOCOM/中部) 5/20	82.0 ➡ 0.0	▲ 6.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 5/20	117.0 ▲ 0.1	▲ 6.0



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(5/9~5/15)のNYMEX・WTI先物市場は78.02~79.26ドルの範囲で推移した。

当週、16日は、前日の米国の4月消費者物価指数(CPI)の伸び鈍化を契機に年内利下げ観測が強まり、また、パレスチナの停戦交渉の行き詰まり、イスラエルのラファ攻撃激化による緊張の高まりを背景に、続伸した。6月物終値は、前日比0.60ドル高の79.23ドル。

週末17日は、中国の4月鉱工業生産高が予想を上回る堅調であったことに加え、同国政府は不動産対策として金融緩和を発表、引き続き、米国でも早期利下げ観測が強くなり、先行き石油需要の拡大期待から、3日続伸し、4月末以来、80ドル台を回復した。6月物終値は、同0.83ドル高の80.06ドル。

週明け20日は、米国連邦準備制度理事会(FRB)幹部が相次いで早期利下げに慎重な姿勢を示し、また、サウジの4月産油量が9か月ぶりの高水準であった一方、米国では夏の需要期に向けた石油需要が低調であったことから、4営業日ぶりに反落した。ただ、イランではライシ大統領、アブドラ

ピアン外相がヘリコプター事故で死亡、サウジではサルマン国王の健康状態からムハンマド皇太子が訪日を延期するなど、主要産油国の国内不安が底値を支えた。6月物終値は、同0.26ドル安の79.80ドル。

21日は、イランでは大統領の事故死に冷静な対応、対外政策・石油政策に変更はないとの観測が強まるとともに、米国では先行き需要減少懸念が高まり続落した。6月物終値は、同0.54ドル安の79.26ドル。

22日は、米FRBの4月末の公開市場委員会(FOMC)議事録公開で、インフレ鎮静には時間を要する、利上げは時期尚早との見解が多く、利下げ期待がしぼんだことで、この日から期近物となった7月物は続落した。また、この日発表の米国石油在庫報告は、ガソリンはわずかに取り崩されたものの、原油は積み増しとなり、市場に大きな影響はなかった。7月物終値は、同1.09ドル安の77.57ドル。

2 海外/米国石油市場

5月22日発表の17日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国内週間在庫統計は、原油が前週比180万バレル増と市場予想(250万バレル減)に反する積み増しであったが、ガソリンは同90万バレル減とわずかながら市場予想(70万バレル減)を上回る取り崩しで、まぢまぢの結果となった。

EIAによると、5月20日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.4セント安の1ガロン3.584ドル(148.4円/ℓ)と4週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比5.9セント安の1ガロン3.789ドル(156.9円/ℓ)と6週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、5月17日時点で、前週比1基増の497基と4週ぶりの増加であった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年5月12日~5月18日に休止したトッパー能力は70.0万バレル/日で、前週に対して34.6万バレル/日増加した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は247.1万klと、前週に比べ30.9万kl減少。前年に対しては0.1万klの増加。トッパー稼働率は68.7%と前週に対して8.6ポイントの減少、前年に対しては2.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/11.2%減、ジェット/24.6%減、灯油/9.1%増、軽油/16.0%減、A重油/38.8%増、C重油/13.5%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は4.5万kl(前週比0.4万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、灯油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェットが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は71.4万kl(対前週8.1%減)と3週振りに減少した。ジェット10.6万kl(対前週4.5%増)、灯油7.2万kl(対前週23.3%減)、軽油63.8万kl(対前週19.7%増)、A重油16.4万kl(対前週8.8%増)、C重油12.4万kl(対前週6.5%増)。

(単位:千L)

	今週 (5/12 ~ 5/18)	前週 (5/5 ~ 5/11)	前週比
ガソリン	714	777	▼ -63 (-8%)
ジェット燃料	106	102	▲ 4 (4%)
灯油	72	93	▼ -21 (-23%)
軽油	638	533	▲ 105 (20%)
A重油	164	151	▲ 13 (9%)
C重油	124	116	▲ 8 (7%)
合計	1,818	1,772	▲ 46 (3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 4 国内/製品在庫量

5月18日時点の在庫は灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは174.6万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては1.7万kl多い。

灯油は140.0万kl、前週差6.9万kl増。前年に対しては4.5万kl多い。

軽油は148.3万kl、前週差9.2万kl減。前年に対しては5.2万kl多い。

A重油は74.4万kl、前週差2.2万kl増。前年に対しては3.1万kl多い。

C重油は180.9万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては14.9万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (5/18)	前週 (5/11)	前週比	
ガソリン	1,746	1,795	▼ -49	(-3%)
ジェット燃料	745	787	▼ -42	(-5%)
灯油	1,400	1,331	▲ 69	(5%)
軽油	1,483	1,575	▼ -92	(-6%)
A重油	744	722	▲ 22	(3%)
C重油	1,809	1,820	▼ -11	(-1%)
合計	7,927	8,030	▼ -103	(-1.3%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

5月14日～20日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートは円安で、円建て輸入原油価格は値上がった。元売会社の卸価格建値は値上げになったものと見られる。上記コスト上げに、補助金増額分を考慮すると、5/23～5/29の実質卸価格はほぼ横ばいとなった模様。

## 6 国内/製品小売価格

5月20日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円値上がりの174.8円、軽油も同0.3円値上がりの154.5円、灯油は18%ベースで1円値上がりの2,106円(1%ベースでは0.1円値上がりの117.0円)。ガソリンは4週ぶりの値上がり、軽油も4週ぶりの値上がり、灯油は2週ぶりに値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが25道府県、横ばいは9県、値下がりが13都県だった。全国最安値は岩手県の168.4円、その次は岡山県の169.5円であった。他方、最高値は長野県の184.4円。最も値上がりしたのは宮城県(同1.9円高)、最も値下がりは長崎県(同1.1円安)だった。

次回調査時(5/27)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/20)	前週 (5/13)	前週比	直近高値
レギュラー	174.8	174.5	▲ 0.3	23/9/4 186.5
灯油	117.0	116.9	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	154.5	154.2	▲ 0.3	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2024第8号) の公表は、5/31 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。